

# 太宰府の文化財

404

## 観世音寺の梵鐘

— 国宝・飛鳥時代 —

「…観音寺はただ鐘の声を聴く」と、901年からの約2年間を観世音寺から1kmほど離れた南館（今の榎社）で過ごした菅原道真が、漢詩「不出門」の中で詠んでいるのは、この観世音寺の梵鐘のことだといわれています。

この梵鐘は銅製の铸造によるもの

で、龍頭という吊り鑿部分には猛々しい双龍が、鐘身の上帯および下帯には肉太の忍冬唐草文、撞き座には新羅系瓦に似た蓮華文が施されています。撞き座の位置は古いものほど高い傾向があり、観世音寺の鐘は鐘身の五分の二ほどの高さであり、奈良時代までの古鐘の中でも特に高



観世音寺梵鐘（高さ159.5cm、口径86.4cm）  
観世音寺所蔵、九州歴史資料館提供画像に加筆



除夜の鐘の様子

も746年までには完成し、法要が行われています。この梵鐘は、7世紀末頃に作られ観世音寺創建期から今までを見守り、そして往時に生きていた人々が耳にした音を現代の私たちにも聞かせてくれる貴重な文化財です。

文化財課 遠藤 茜

い位置にあります。

この梵鐘と「兄弟鐘」と言われる

銅鐘が、京都の妙心寺にあります。

二つの鐘は、龍頭の大きさや上帯・

下帯の唐草文に差異はありますが、

鐘身のサイズやプロポーション、撞

き座の位置や大きさ、上帯・中帯・

下帯の位置と幅などが一致してお

り、鐘身部が同じ挽形から作った鑄

型で製作されたものとされています。

妙心寺の鐘には、陽鑄された銘

文があり、それによると698年に

現在の糟屋郡で作られたものと分か

り、製作年が明らかな銅鐘としては

日本最古のものです。観世音寺の鐘

も妙心寺の鐘と近い時期に製作され

たと考えられており、さらには、竜

頭や上帯・下帯の唐草文の形態の違

いから、観世音寺の鐘の方がより古

いものとする見解が有力となっています。

妙心寺の鐘は引退し、現在は法堂

の中に安置されていますが、観世音

寺の鐘は今なお現役で、秋の太宰府

天満宮の神幸式大祭（通称「どんか

ん祭り」の際にはお下り・お上り

の儀で行列が観世音寺の南のどんか

ん道を通過する時に合わせて、鐘が

衝かれています。また、大晦日には

除夜の鐘が撞かれ、最後にご住職が

撞く鐘の音とともに新しい年を迎え

られます。太宰府のまちに響き渡る

この日本最古の鐘の音は、「残した

い」日本の音風景100選」に選

定されています。

観世音寺は、天智天皇が661年

に亡くなった母・斉明天皇の追善供

養のために発願した寺で、遅くと